笑いの笑解(紹介)

WS-23-051 R5.4.26

作成：芝崎

53. 海外出張の思い出篇： 韓国で異文化に触れる

（1）お客さんが韓国のプロ野球の観戦に誘ってくれた。選手名の記載ある掲示版を見ると、最初の一**ハングル文字**だけが同じに見えたので、聞いてみたら、全部同じで「金（キム）さん」との事。ロボットの選手試合を見ている感じ。なんか違和感あり。
ハングル文字は「訓音正音」と言い、以前の朝鮮/庶民では、話言葉はあり、文書はなかった。庶民は漢字を読めず、訓読みの文字として、当時の王/世宗がこのハングル文字を 1446 に制定。（尚、この文字ができる前は特権階級のみ読める漢字を文書/書籍には使用していた）

（2）焼肉店では、骨に巻き付きていたカルビーを延ばして、店員が「立ちばさみ」で長方形にカット、その場でカットしてくれて、新鮮な感じでおいしかった。別の日に、今度は韓国に鰻の店もあるよと言って連れてくれたが、なんと蒲焼も焼いた後、店員が「立ちばさみ」で長方形にカット。同じ発想なんだと思ったが、鰻のイメージダウンした感じ。

（3）有料の高速道路に入る際、口の空いたドラム缶に指定のコインを投げ込む、合理的だと思ったが、見ていると、ドライバーはカー杯コインをドラム缶に投げ込む、すごい音。
コイン無い時は？と聞いたら、投げることを想定していて、ドライバー必ず持っていることらしい。ストレス解消で、ストレスが鬱積した人がなんと多いことか。

異： **（異）**国では、日本と異なる状況に遭遇することが多い
文： **（文）**書も異なり、初めて今回遭遇するのがハングル文字だ
化： **（化）**学反応する要因は歴史・風俗習慣等で長い時を経て変化してゆくようだ
接： **（接）**することで、国の成り立ちの違い、環境の差も少しづつ感じる
触： **（触）**れて、その国のイメージを少しでも理解できたら、面白いだろうと思う。

➡ でもこの心境になる時は帰国の日、又、今まで変わらない以前の日本での生活に戻る。
今、仕事から解放されて、訪問した国の歴史書を読み始める。当時、読んでおけばと、後悔するが、当時の事が甦ることもある。温隣知文化（特に食）で味蕾を通して未来永劫この隣国と友好を続けてもらいたい。

以上